

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173700261		
法人名	有限会社 サービス企画		
事業所名	グループホーム なかよしの家		
所在地	虻田郡洞爺湖町栄町51-1		
自己評価作成日	平成24年2月22日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 地元の新鮮で安全な食材が、いつも食卓に並び食欲をそそる食事を提供しており健康への配慮をしています。「地産地消」で「健康長寿」を実践しています。                  * 1ユニットで小さいですが、小規模ならではのアットホームな雰囲気の中で、関係を深め日々を過ごしています。                  * 低所得者への配慮として、利用料金を低額で設定しています。</p>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173700261&amp;SCD=320">http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173700261&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成24年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の要介護高齢者支援の想いから、開設した当ホームは、随所に管理者の意向が反映されています。建物は3階建ての堅牢な構造で、遠赤外線方式の熱暖房が全館の天井に設置されており、安心で安全な快適空間が提供され、浴室には介護度の高い利用者のため、機械浴設備もあり、居間兼食堂など共有スペースも、ゆったりとして暮らしやすい構造です。また、恵まれた自然環境の中で、地域の人々とふれ合いながら、「穏やかにゆったりと過ごして頂きたい」との管理者の方針に沿って、職員は、丁寧に作成したケアプランに基づきながら、笑顔と優しさを忘れず親身なケアサービスに徹しています。このため、家族からのホームや職員に対する評価も非常に高く、感謝の言葉と共に、熱心に働く職員の健康を気遣う声もあるなど、利用者と家族と職員が一体感を感じさせる温かいホームです。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について内部研修(勉強会)を開催し、管理者・職員ともに話し合い共有をしている。又常に目に付く所(宿直室・玄関・台所)等にも貼り、意識を高め実践につなげるよう努めている。	ホーム理念を建物内の随所に掲示しています。さらに、理念についての内部研修を実施し、理解と確認をしながら、全職員の共有とし、実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会・学芸会などへ見学に行き、交流を図っている。又自治会にも入っており、季節の行事に参加している。	運動会や盆踊りなどの町内行事への参加、小学校の学芸会見学、利用者作品の役場内展示、周辺住民の方々の相談やホーム来訪など、地域との日常的な交流があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて定期的な講習会の開催は無いが、一般の来訪者の方からの認知症の人に対する相談・助言をいつでも受け付けており対応している。今後更に相談や啓発などに取り組んでいきたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の開催。運営推進会議の参加者の方が入居者の方と顔馴染みなので、個別サービス向上について様々な意見を頂戴している。又専門分野、特に消防の方からは、災害時に対するアドバイスを沢山頂いておりサービス向上につながっている。	会議は、ホーム行事とは別に単独で2ヵ月毎開催し、多数の行政関係者や、地域住民の方々などの参加を頂いています。会議は、毎回異なるテーマを設定し、変化のある内容となるよう努め、意見等をホーム運営に活かすようにしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや相談がある都度、役場や消防署へ行き連絡・相談を行っている。今年度は、スプリンクラー設置について密に連絡・相談をし、助言を頂きながら設置に繋がっている。又入居者個人についての相談なども行っており助言を頂いている。	町役場がホームの近くにあるため、管理者は会議で接触する以外に、頻りに担当窓口を訪れ、相談や情報交換を行うなど、町との強力な協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に自由にして頂いており、身体拘束はしていない。「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についてもスタッフ全員が正しく理解し、拘束をしないケアを継続するために更に知識を深めていきたい。	西胆振地区グループホームの広域連絡会や、その他の外部の身体拘束関連研修に職員は交代で参加し、内部の勉強会で共有しながら、実践に努めています。玄関の施錠は夜間のみで、玄関の出入りも分かるようセンサーを設置しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使い、ケアの方法などスタッフ間で互いに注意し合い日常のケアに繋げている。今後更に知識を深める為にも、内部・外部研修などを通じ「高齢者虐待防止法」等学ぶ機会を持つようになっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの制度を活用している方がおり、関係者と密に連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つの説明にご理解が得られるよう確認をしながら説明を行い、契約等を行っている。又入所後においても必要に応じて、質問や疑問・不安な点について積極的に尋ね確認をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、面会時などには積極的に意見を聞くように声掛けをしている。意見や要望があった時には、直接管理者に伝えたり、ミーティングや申し送りなどを活用し情報を共有している。	家族来訪時や写真入りの「お便り」の送付などで、利用者の様子を伝えていきます。家族からの要望等は、申し送りノートに記載しながら、三者会議（管理者、ケアマネ、リーダー）や毎月のミーティングで協議し、課題解決に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月一回開催されるミーティング時や必要に応じて意見や提案を聞き入れたり、相談にのっている。又年に一度、職員との個人面談を開催している。	日常業務の中で、管理者と職員は自由に話し合っていますが、さらに、ミーティングや個別面談等を通して、職員の意見や提案を把握し、ホーム運営に反映させるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用に加え、サービス残業が無いように配慮している。又職員間の調和を図るために、食事会や歓送迎会などを開催している。今後は職員各個人が向上心を持って働ける環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内をすべての職員に伝え希望を募っている。人材育成については常に考慮しており、今後は職員の力量に合わせて研修計画を立て、積極的な外部研修の活用を検討している。又内部研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の広域連絡会や複数事業連携研修会に参加しており、勉強会や研修会に出席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族から情報を得たり、直接ご本人に尋ねて、一つ一つ丁寧に確認し共に生活をしながら、信頼関係を築き上げるように努めている。徐々に「安心できる家」と認識して頂いる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行いご家族の不安について常に耳を傾けている。信頼関係が築き上がるにつれ、ご家族の方から電話などでも相談があり随時対応をしており信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの支援だけにとらわれず、その方にとって必要な支援・環境（他サービス利用も含め）を関係専門職と連携を取りながら対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは、一緒に話をしながら共に行い、人生の大先輩でもある入居者の方からは、編み物や料理の仕方など教わる姿勢で接している。又楽しい時に一緒に笑ったり、悲しみを分かち合い共に泣いたりしながら暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を個々に把握するように努めている。良好な関係を保てるように努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の商店に買い物に出かけたり、住み慣れた町を散歩したりしている。積極的な外出は徐々に困難になっているが、知人や近隣の方々の来訪はいつでも歓迎しており、自由に会えるようにしている。	利用者と地域住民の方々とは、馴染みの関係が出来るため、散歩や買い物時に挨拶を交わし、知人等のホーム来訪も歓迎しています。また、利用者の希望で、思い出の場所などへドライブを兼ね出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時間・共同作業の時間などを活用し、孤立しないように常に気を配りながら入居者の方々の仲介をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族が来所したり関係が続けている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から情報を得たり、日々の生活の中で、ご本人の発する言葉に耳を傾けたり、表情などを見ながら、思いや気持ちをくみ取るように努めている。センター方式を活用し本人本位の視点を重視している。	センター方式の様式に記録した利用者の心身情報や、アセスメント情報などを参考にしながら、思いや意向を把握するようにし、把握困難な場合は、職員同士で相談しながら、利用者本位のケアに努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・知人・関係者などから積極的に聞きアセスメントしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の暮らし方や楽しみ等、ご本人やご家族から聞き情報収集に努めている。現在の状況を常に見極めながら、ミーティング時や申し送りなどを活用して、スタッフ間でそれらの情報を共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人からの聞き取りを基本にし、ご家族の要望を十分に取り入れるように心がけている。月一回のミーティングでは、全スタッフからの情報をまとめ、再度モニタリング時に、スタッフ一人一人に聞き取りを行い、介護計画へ繋げている。	介護計画の見直しは、事前に家族に相談しながら、毎月のミーティング及びカンファレンスで検討しています。介護計画は、センター方式を採用し丁寧に作成しているため、職員にとっても利用者の状況を把握しやすく、一人ひとりに合わせたケアに効果をあげています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、個人のアセスメントシートや受診内容、処方箋等をいつでも閲覧できるようにしている。又日々の記録では個人の食事量や水分・排泄等に加え、ご本人の言葉などを明記して情報の共有を図り、それらを介護計画に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冠婚葬祭への参加による外出、又は遠方のご家族の面会による宿泊や食事の提供など、その時々必要に応じて柔軟な対応を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校への訪問、近隣住民との交流(焼き肉)、ボランティアの慰問など、フール・インフォーマルを問わず交流を図るように努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を常に伝えながら、2週間に1度の協力医の往診、定期的なかかりつけ医の受診の体制を整えている。常にかかりつけ医等の医療関係者と連携をとりながら適切な医療を受けられるようにしている。	協力医療機関による隔週毎の定期訪問診療がありますが、利用者の状況に応じて、他の医療機関の受診をしています。受診の際は、遠隔地を除いて管理者又は職員が付き添い、医療機関とも連携を図りながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護の体制を整えており、入居者の方の状況を伝え、指示やアドバイスを頂いている。日常のケアの中での質問や確認なども、スタッフ一人一人が積極的に看護師に尋ねており、連携は十分にとれている。緊急の電話相談もして頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期治療を終えるとはほぼ退院しており、その後の経過報告や様子観察の注意点等のアドバイスを頂き、退院後の対応に備えている。ご本人やご家族を中心にし、病院関係者・かかりつけ医・訪看との連携を密に図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りの実績があり、その都度十分な話し合いを行っている。今後は初期の段階からの話し合いを設けるように努めたい。	ホームは、重度化や終末期の指針を作成し、家族へも説明しています。家族の希望により、ホームで看取りまで可能なため、過去に3件の事例を経験しており、今後も希望があれば看取りまで実施する方針です。	利用者の終末期におけるホーム側の対応について、家族の理解とトラブルを避けるためにも、ホームの方針に対して、家族の同意書を頂く事の検討を期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催されている普通救命講習の受講しており、スタッフ全員が受講している。来年度より再受講の予定をしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。ホーム周辺に協力員もおり、隣接している役場・消防とも協力体制が整っている。本年度は、スプリンクラー・火災通報電話機の設置も完了しており、スタッフ全員が取扱いの説明を受けている。	避難訓練は、消防署の指導を受けながら、夜間想定を含め年2回実施し、昨年は地域住民の方々も参加しています。ホームの災害対策の設備も整備され、運営推進会議を通して、災害時における地域の方々の協力を要請し、理解を頂いています。	ホームとして災害対策の取り組みの努力が伺えますが、今後は、食料品や災害時用の備品類などの準備を期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として常に尊敬をし、言葉使いには十分気を付けている。今後もスタッフ間で互いに注意しながら、更に尊重や誇りを高めるようにしていきたい。個人ファイルは事務所内で保管している。	職員は、日常のケアサービスにおいて、利用者への言葉かけなど、誇りやプライバシーを損ねないよう、十分配慮しながら支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の表情や言葉などから、その思いを汲み取るように努めている。一人一人に合わせてわかりやすいように説明しできるだけ、自己決定をしてもらうように心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮をしながら、食事時間や起床時間等ご本人のペースを大切にしている。又居室にてご自分の趣味を楽しみたい方もおり、その人らしい暮らしを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的にスキンシップを図りながら、爪切り、髭剃り、整髪等を行っており、外出時や行事等の服装のおしゃれの支援も行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むきやもやしのひげ取り、下膳、テーブル拭き、食器拭き等、出来ることを共にしながら準備をし、スタッフは入居者の方と一緒に食事を楽しんでいる。時々おやつ時間に、皆でホットケーキを焼いたり、ジャムを塗ったり楽しんでいる。	献立は、地域の新鮮な魚介や野菜を使用し、利用者の好みを勘案しながら、たてています。一部の利用者は食事準備等を手伝い、食事中は職員も一緒に食べながら、和やかに過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	申し送りやミーティングなどを通して情報交換を行い、一人一人に合わせた食事量を検討し提供している。又個人個人の摂取状況に合わせて、お粥・軟食・刻み・トロミなど形状を変えて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアを行っている。毎食後に義歯を出す方も居るが、十分な口腔ケアを行えない方も居るので、清潔保持に努めたい。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を催した時の動作などを把握し、適切にトイレへ誘導している。排泄の声掛けが必要な時は、周囲の状況にあわせ、さりげなく声掛けるようにし、尊厳や羞恥心に配慮しながら行うように努めている。	ホームには高齢と介護度の高い利用者が多いため、排泄の自立が困難な状態にありますが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や行動を見ながら、声掛け誘導などの支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に季節の野菜を沢山取り入れている。一人一人に合わせ乳製品も積極的にとっていただいている。日常的に階段を使用し運動をしたり、全員でストレッチや体操なども行うようにしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、入居者の方々に楽しく入って頂いている。全介助の方についても入浴を十分に楽しんで頂く為に機械浴を導入し支援を行っている。今後入浴の他、足浴やシャワー・全身清拭など状況に合わせて柔軟な対応をしていきたい。	利用者の入浴は、午後の時間帯に週2回を目途とし、身体状況により機械浴槽を用いて実施しています。また、利用者の状況に合わせて、清拭やシャワーなども実施しながら、清潔を保つよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や心身の状況など、常にスタッフ間で申し送りをし一人一人の状況を把握しながら、個々に適した環境で（自室・ホール）日中の休息を促している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに処方薬についての情報をまとめ、スタッフが閲覧できるようにし理解や確認に努めている。処方薬の変更や服用の注意などは、申し送りを活用し随時情報を共有し対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	針仕事（布巾・雑巾縫い）や力仕事（物運び・雪かき）金魚やカメの世話等、その方の生活歴の中から得意とすることや楽しみとしている事を積極的に働きかけている。散歩、塗り絵、歌、自らされる歩行訓練等を行い楽しみを持って頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、自宅へ出かけたり、飲食店へ行き外食を楽しまれている。季節を楽しんで頂くために、花見・さくらんぼ狩り・ブドウ狩り等地域の特性を活かし外出をしている。日常的には、近隣の散歩や商店への買い物等をしている。	日常的には散歩や近くの店へ買い物に出かけ、ホームの車両を利用して、近隣の名勝地や道の駅を訪れる外出を楽しんでいます。また、建物内の3階テラスでバーベキューをしたり、広いホーム内の歩行など、出来るだけ室内に閉じこもらない暮らしを支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金を預かっているが、希望により少額の金額であれば個人持参の対応をしている。又「いつでも自由に使えるお金がある」という安心感を持って頂くために、買い物の時は、ご自分で財布から支払っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にいつでも電話をしたり、年賀状など手紙のやり取りなどを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じるような手作りの展示品を常に飾っている。窓が大きく見えやすいように配置しており、四季折々の景色が見えるようになっている。清潔感にも常に気を配っており、共同スペースからはトイレや浴室が見えないようにブラインドにも配慮している。	広い建物のため共有スペースにも余裕があり、明るい食堂兼居間には、写真や季節の飾りで、アットホームな雰囲気があります。同スペースには、食卓以外に一人用の椅子が全員分あるため、利用者は、日中もこの場所でのんびりと過ごしています。暖房は、遠赤外線方式の天井埋め込み型で、衛生と安全面に優れ、浴室やトイレも広くゆったりとしているため、暮らし易いホームです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座りやすいクライニングを配置し、仲の良い入居者の方が隣に座り会話につながっている。体調に合わせてすぐ横になって休めるスペースもあり、共同スペースから死角になり人の気配を感じながら、狭いながらも一人で過ごすスペースなどもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を持参して頂いている。身体状況などに合わせて、ご家族と相談しながらホームにある物も自由に使用して頂いている。(介護用ベッド等)又ホーム行事などの作品や写真、大切なご家族の写真等を飾っている。	居室にはクローゼットが設置されているため、整理整頓が容易であり、共有スペース同様の居室毎に温度調節可能な暖房設備もあるため、寒さを感じさせない室内です。利用者は、テレビや馴染みの調度品等を自由に持ち込み、居心地良く、のんびりと過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かりやすいように、戸口にご自分の名前を明記している。各居室内に物干しスペースを作り、ご自分の洗濯物を干し、乾いた時にご自分で片づけが出来るようにしている。		